※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	ソルフェージュ（聴音）	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の音楽２」　（教育芸術社）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ソルフェージュ力はすべての音楽活動の基礎的な力になります。視唱、視奏、聴音のさまざまな課題を通じて、また音楽理論や音楽史の学習とも総合的・多角的に関連をもたせながら学びます。そして、常に専攻実技との関わりを考えておくようにしましょう。各自で、またグループでリズム創作や聴音や視唱の課題創作にもチャレンジしてみましょう。
- 習熟度別に４展開で行います。
- 定期テストを前期と後期に１回ずつ行います。

2　学習の到達目標

ソルフェージュに関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
【知識及び技能】聴音に関する知識や技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力・判断力・表現力等を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ソルフェージュＢでは専門的な音楽に関する大切な資質･能力として、音楽理論の知識を基本とし 正確に音高･音程･リズムを聴きとり楽譜にすることができるようにする。	正確に音高・音程・リズムを聴きとり楽譜にすることにより、音楽を形づくっている要素を正しく捉え、自身が取り組んでいる専攻実技の演奏表現に活かすようにする。	音楽に関する基礎的な力を付けることで、音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	旋律聴音・複旋律聴音・和声聴音	調号が2つまでの長調・短調による単旋律と複旋律の聴取 調号が1つまでの長調・短調による密集4声体の聴取 定期テスト(単旋律、複旋律、密集4声体)	a:正確に音高・音程・リズムを聴きとり楽譜にすることができている。 b:　音楽に関する基礎的な力を付けることで、創意工夫を生かした演奏表現をしようとしている。 c:　自分が間違った箇所を訂正・分析することで、自分の苦手な部分を見つけ、克服しようとしている。	確認テスト 定期テスト 観察	振り返りシート 観察	振り返りシート 観察
後期	旋律聴音・複旋律聴音・和声聴音	調号が2つまでの長調・短調による単旋律と複旋律の聴取 調号が2つまでの長調・短調による密集4声体の聴取と調号なしの長調・短調による開離4声体の聴取 定期テスト(単旋律、複旋律、密集4声体)	a:正確に音高・音程・リズムを聴きとり楽譜にすることができている。 b:　音楽に関する基礎的な力を付けることで、創意工夫を生かした演奏表現をしようとしている。 c:　自分が間違った箇所を訂正・分析することで、自分の苦手な部分を見つけ、克服しようとしている。	確認テスト 定期テスト 観察	振り返りシート 観察	振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度